

戦略的イノベーション創造プログラム (SIP)

2023年度

研究開発実施報告書

SIP 課題名 「ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現する
プラットフォームの構築」

研究開発テーマ名

「主体性を醸成する生涯学習プラットフォーム構築と
「知」の総合化」

研究開発期間： 2023年10月1日 ～ 2024年3月31日

研究開発責任者	氏名	大島 俊一郎
	所属機関	国公立大学法人 高知大学
	部署	教育研究部総合科学系黒潮圏科学部門
	役職	教授

研究開発成果等の概要

我々は、「主体性・創造性を醸成する生涯学習プラットフォームの構築」を目指し、「サマセミ型学びの場」の導入を開始した。

まず、「大学内・大学間でのサマセミ型学びの場」では東北大学が中心となり、「みんなのセミナー 冬セミ」を開催した。「春セミ」（2023年5月）、「夏セミ」（2023年9月）、「冬セミ」（2024年2月）を開催した。「春セミ」は東北大学初年次必修科目「学問論」の中で開講し、学生が「センセイ」として自身でデザインした授業を行い、学部1年生が「セイト」として参加した。「夏セミ」と「冬セミ」については、学生に加えて学外の社会人（企業関係者、地方自治体関係者等）も「センセイ」となり、学生と社会人が協同的に学び合う場を実現した。また、当該年度実践の反省を踏まえ、学生による組織運営体制の強化を目的として、新たに「SCC（Student Community College）」という組織・事業を発足させた。来年度は12名の学生（学部生・修士課程院生）により活動をスタートさせる予定である。また、高知大学と千葉大学でも次年度以降に大学内で「サマセミ型学びの場」を開始するために、実行委員会の発足の準備を行っている。高知大学では、高知県内の高校生・大学生の複数の団体と議論を重ねている。千葉大学では、大学生主体で留学生との交流イベントを開催した。次年度以降の展開のために、Chiba Media Art Projectと連携し、多様な視点や価値観を学ぶプラットフォーム構築に向けた議論を開始した。さらに、次年度中心的な役割を担う学生の育成に向けたプログラムも実施した。

次に「地域でのサマセミ型学びの場」では高知大学が中心となり、室戸市で「サマーセミナー」を開催した。その結果、自分自身を振り返るとともに、自分の経験について他者に語ることで、他者への学びとなり、「学びの楽しさ」を実感できる。この「サマセミ型学びの場」で出会った様々な人たちと繋がることで多様な連携が生成され、他のイベントにおいても「学びの楽しさ」を他者に提供でき、主体性の醸成が確認された。また、室戸市だけではなく、いの町でもサマーセミナー実行委員会を発足し、次年度開催に向けて準備を開始した。さらに大豊町でもサマーセミナー実行委員会の発足に向けた議論を開始した。

また「企業内・企業間でのサマセミ型学びの場」では、複数の企業と議論を開始し、次年度以降に「サマセミ型学びの場」を開始できるように準備を開始した。また、企業人を対象とした学び方・働き方を繋ぐ生涯学習プラットフォーム構築に向けた研究会を開催した。

我々は、「サマセミ型学びの場」の構築を目指し、D&Iの視点からオンラインイベントを開催した。このイベントは、中学生をはじめ、高校生、大学生、さらに企業人を対象とした。まず、「哲学カフェ」においては、高知大学と東北大学が共同して定期開催した。両大学の学生に加えて、社会人（企業）も参加し、学生と社会人の共創的な学びの場となった。また、「オンライン公民館」は、2023年10月から計4回実施し、8名のセンセイが様々な趣味・興味のあることで授業した。その結果、オンラインを通じて、地域の方々や地域の文化、これまでの経験が異なる人たちと対話することで、新たな気づきが生まれ、それぞれの参加者にとって刺激的な学びとなった。この出会いから、「まずは行動してみることの楽しさ」や「大人はもっと頑張らないといけない」といった参加者からの声もあり、主体性の醸成が確

認できるような意見が数多くあった。

さらに、D&Iの視点から「食育：出前養殖プロジェクト」を開始した。これは、「サマセミ型学びの場」の一環として、幼稚園、小学校、高校、大学ならびに民間企業が協働して主体性を醸成する学びの機会を提供するものである。今年度は、高知市内の小学6年生と東京都内の特別支援学校の高校3年生を対象に開催した。その結果、生徒が普段食べている魚を飼育することで、「命」の重要性や「食」へのありがたみを実感を伴って再認識してもらうことができた。また、魚の飼育を通じて、理科や社会といった普段の授業との繋がりが実感でき、面白くなったという生徒や大学に対する興味をもった生徒が複数人確認された。

次に、「「知」の総合化に向けた学習カリキュラムと学習コンテンツの開発」を目指し、『主体性・創造性のための学習コンテンツ／学習カリキュラムを開発』を行った。教材開発として、東北大学では、アカデミックライティング教材『レポート指南書・別冊』を作成した。これは、従前から東北大学において初年次学生向けのアカデミックライティング教材として使用されていた『レポート指南書』を補完する内容となっているが、特に「論理的に考え・書く」という部分に焦点化し、今後は学外の高校生や社会人の学習にも活用を図っていく計画である。また、高知大学を中心に、「養殖コンソーシアム」を計8社の企業と連携して立ち上げた。このコンソーシアムでは、産業チェーンを意識して、生産、流通、販売、医療、化学、ITならびにエネルギー関係の事業を行っている企業に参画していただいている。ここでは、生活者として参画していただくことを重要視しており、経済原理だけで繋がりがちな現状の課題（効率化による思考、行動の画一化）に対して、この関係性を人と人の関係性に繋ぎ変え、思考、行動の変容を図ることで、イノベティブな発想を生み出し、かつ生まれた発想を参画者で協働し、迅速に社会実装に繋がるものやことにつくり上げる仕組みを立ち上げた。千葉大学では、「創造性ワークショップ」を開催した。3名のゲストを招き、「自身のフレームの外にある視点に触れる」ということをキーワードにした、全4回のワークショッププログラムを開催した。ワークショップには、計26名の大学生が参加した。現在、本プログラムの教育的効果について、知的好奇心や創造性に対する認識の変化、触発といった観点から、分析・検証を行っている。